



日帰り旅行で、
サンシャイン水族館へ。



感動と勇気を

与えられる人に

副施設長 貝沼 寿夫

今年は、日本海側の大雪被害などもあり厳寒の冬でしたが、少しずつ春めいた日差しを感じられるようになりました。先月17日に行いました支援実践報告会には、地域やご家族の方、他施設職員の方々に大勢ご参加いただきました。誠にありがとうございました。皆様から頂きましたご意見やご感想を基に更なる支援の向上に繋げていきます。

多くの感動を与えた平昌オリンピックも閉幕し、今はパラリンピックが行われています。今回一番の歓喜は、何と言ってもフィギュアスケートでした。羽生結弦選手と宇野昌磨選手の金銀ワンプーフイニッシュには、日本人として誇りを感じました。特に羽生選手は、昨年来の怪我により、練習もできない状態でも出場選考の大会にも出場できず、その動向も注目されていました。オリンピックの本番も、痛み止めの薬を飲みながらの演技だったそうです。

羽生選手には、ただ単に日本人が金メダリストになったという喜びだけではなく、あの演技自体に日本人のみならず世界中の人達が大きな感動と勇気のプレゼントをもらいました。その要因には、やはり怪我からの復活があったのではないのでしょうか。過去にも羽生選手は、震災の為練習場を失くしたり、怪我をして、頭に包帯を巻いて出場したりしました。彼は、逆境の繰り返しの中、もがき苦しみながらも前向きに世界一という目標に向かい続けました。そして世界大会やオリ

理想の施設を現実にするために

今年度から新しく発足された『東京No.1プロジェクト課』、通称「やったる課」です。

先日テレビでさまざまな職業とその離職率の関係の話をしており福祉施設はワースト3に入っていました。こぶしも一緒に働いてきた仲間を毎年見送っており、その都度寂しさと同時に危機感を抱いていました。最近「働き方改革」と言う言葉を良く耳にします。やったる課では「自分たちの職場は自分たちで作っていく」を目標にして取り組んでいます。まだ1年目という事で手探りでスタートでした。

誰かをあてにしたり、誰かの責任にしたりせず自分たちで出来る事を考え行動していくこと、経営層や法人本部だけではなく職員一人ひとりの“力”がとても重要だと思います。それぞれが助け合い、補い合いながら毎日楽しく働きやすい職場を目指して2年目を迎えたいと思います。職員みんなの力を借りて一歩ずつ着実に前に進めるよう、どんなことでも『やったるか(課)!!』の気持ちで邁進したいと思います。

東京No.1プロジェクト課 藤原 亮子

ンピック出場を成し遂げ、大会ごとに自分の限界を超え、最高のパフォーマンスで2大会連続金メダルの偉業を成し遂げました。

人は、どんな時に人から感動と勇気をもらえるのでしょうか。羽生選手はインタビューで、『あのまま順風満帆だったら、金メダルをとれていない。これは間違いなく言える。』『逆境こそチャンス。』と、答えています。逆境を自分の糧としポジティブに変換して、最善の努力をし、最高の場で最高のパフォーマンスを披露する。金メダルという結果ではないのかもしれませんが、結果だけではなく、ひたむきに逆境と向き合い、それを乗り越えていく姿こそが、感動と勇気を与えられる唯一の姿なのではないでしょうか。

私も、毎日思い通りにいくことばかりではなく、むしろ上手くいかないこと、課題だらけです。すべてが上手くいく思い通りの生活、ひよつとしたらそれは感謝や達成感、幸福感を感じられず、とてもつまらない人生かもしれません。逆境や課題から逃げていても、環境や他人の責任にしても、何も解決はしません。充実した人生を送るためにも、羽生選手のように逆境・ピンチの時ほど、これは何かのチャンスと捉え、乗り越える方法を考え、逃げずに愚直に努力していけば、必ず結果は出ると信じています。そして、そんな生き方を続けていくことで、いつか私たちも、周りの誰かに感動と勇気をプレゼントできる存在になれるのかもしれない。

フォトニュース

日帰り旅行 清瀬事業所

～サンシャイン水族館～



4月活動予定



日	月	火	水	木	金	土
1	2 入職式 開所日	3 開所日	4 開所日	5 お花見 開所日	6 開所日	7
8	9 開所日	10 開所日	11 クラブ 開所日	12 開所日	13 開所日	14
15	16 開所日	17 開所日	18 クラブ 開所日	19 開所日	20 開所日	21
22	23 誕生会(施) 開所日	24 開所日	25 クラブ 開所日	26 開所日	27 開所日	28
29	30 開所日					

実践報告会を行いました

2月17日(土)東久留米市にある成美教育文化会館に於きまして、『平成29年度支援実践報告会』を開催いたしました。当日は、会場内ほぼ満席になるほど沢山の方にご来場いただきました。

日頃より大変お世話になっている当法人の嘱託研修講師である社会福祉法人 幸会 理事長の伊藤浩先生による『生きがいを感じる豊かな日中活動とは』の基調講演をはじめ、こぶしが支援をする上で大切にしている考え『暮らす・働く・学ぶ・関わる』の4領域での支援実践を報告させていただきました。

こぶしの支援の内容を多くの方々にご理解・評価いただけたことや職員が準備を含めて発表する経験を出来たことは、今後の支援や運営に必ずや役に立つことがあると実感しています。

改めまして、この場をお借りしまして伊藤先生をはじめご協力いただきました皆様やご来場いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

サービス管理責任者 坂口 麻衣子

一年を振り返って

入職してから早一年が経とうとしています。右も左もわからなかった入職式、とても緊張しながらご利用者の前に立ったのを今でも鮮明に覚えています。温かく迎えてくれたご利用者様・支援者の皆さんがいたから、私は今もこぶしで働いているのだと思います。

この一年、色々なことがありました。学生から社会人へのステップアップ、今までとは違う生活に戸惑う事も多く最初の何ヶ月は悩む日々でした。自分のやっている事はあっているのか、間違っていないだろうか不安に思う時もありました。しかし、私の支援でご利用者様が笑顔になっているのを見て、自信が段々ついてきました。まだ完璧とまではいきませんが、ご利用者様が笑顔になれるような支援を行っていきたく思います。

生活支援員 佐藤 里胡

